

東京双松会会報

発行 東京双松会事務局 (中央印刷事務器株式会社内)
TEL:03-3265-4858 FAX:03-3265-4859 URL:http://www.tokyo-soshokai.org/
印刷 中央印刷事務器株式会社 本社:〒102-0084 東京都千代田区二番町11-3

日本は意外と「持ってる」国である

会長 芦田 昭充(第13期 昭和37年卒)



東京双松会の皆様、お元気でご活躍のことと拝察致します。

最近の国際政治情勢を見ておきますと、戦後築き上げられた民主主義をベースとする国際的なシステムが崩落しつつあり、混沌とした状態にあるように見受けられます。何よりも「ファースト」という表現でエゴ丸出し品格喪失にはウンザリします。そのような中で日本はもう一度、日本自身をじっくり眺め、弱点はできるだけ克服することが重要ですが、そのためには日本の立ち位置をもう一度しっかりとしたものにする必要があると思います。

ある米コンサルティング会社による「国の評判に関する年次調査2018年版」が発表されました。日本は対象55か国中8位でした。ちなみに欧州の英・仏・独はそれぞれ、16、18、19位、米国34位、中国45位でありました。一方、国連調査の「幸福度ランキング」即ち自国に住んでいて幸福かどうかという調査では、日本は51位と低位でした。この懸隔は何でしょうか。日本人には海外を何となく過大評価し、日本を厳しく見るという傾向がありますが、それによるものか、はたまた自分の国そのものを知らなさすぎる故でしょうか。

最近、よく海外旅行に出かけていますが、海外の目線で見ると別の日本が見えてきます。我々が小さいころよく目や耳にした表現に「極東の果ての小さな島国である日本」というものがあります。果たしてそうでしょうか？ 例えば、欧州43か国(除くロシア)中、面積では上から6番目です。独は日本の95%、伊は79%、英63%です。少し古い話ですが、東西ドイツが統合した時、4大紙の解説委員の方々4人と偶々会食する機会がありました。私が東西ドイツの面積は日本と比べてどちらが大きいでしょうか？ と取って質問したところ、みなさんの答えは「馬鹿なことを聞くな。ドイツに決まっているだろう。」というものでした。事ほど左様に知識が豊富な方々であっても日本=小さな国という思い込みが強かったことを示しています。

気候についても日本には梅雨があり、蒸し暑い夏があり、台風も来る。欧州はさっぱりした天気です。羨ましいというのが一般的ではないでしょうか。しかし実際はどうでしょうか。ロンドンの緯度は北緯51°で樺太の中央あたりに位置します。従ってロンドンの人は、四季はあることはあるけれども「短い春、短い夏、短い秋、そして長い冬」である

と表現しています。8月に入ると涼しい風が吹き、間もなく長い冬がくるなど少し気が沈むと知人は言っております。

「日はまた昇る」を書いたビル・エモットという人の名前に記憶がある人は多いと思います。この人が約20年前の12月に東京に来られ、講演されたことがあります。私も聴きに行きましたが、同氏曰く「失われた10年」ということで日本が沈滞しているかと思ったが、昨日銀座に行ったところ大変賑わっており、更に冬でも青い空が広がり、太陽が眩やかに真上から(ちょっと大げさですが…) 燦々と輝いている。ロンドンでは冬に太陽が出ること自体珍しいが、出たとしても斜めから出て、12時でも影が長く、東京が羨ましいというものでした。

人口でも独は8,200万人、英・仏・伊は約6,000万人。日本は遙かに大きな国です。従ってGDPでも独は日本の70%、英60%、仏55%、伊40%です。

「失われた20年」そして中国にGDPで追い越されたということで日本はずいぶん存在感が薄い国になったのではないかと一般に受けとめられているようですが、日本はまだまだ大きな国なのです。

少し低い次元の話になりますが、日常生活から見ても、日本は決して悪くはないなと実感しています。先月ロンドンで初めて地下鉄にりましたが、日本の明治維新のころにできたため、それ自体は素晴らしいことだと思いますが、日本の地下鉄と比較して空間が狭く車両も窮屈な感じがしました。また、エスカレーターが少なく、階段がやたらに多いという印象でした。更にロンドンで最も困ったことは公衆トイレが少ないことでした。スーパーマーケットなどで、とにかくトイレには行けるときに行っておくことを心掛けました。清潔な公衆トイレがたくさんある日本の便利さをありがたく感じました。

数年前、パリを訪問しました。その際、街を歩く時は道路の両端は歩くなど現地の方に注意を受けました。なぜなら、犬の糞がたくさん落ちているからです。

(2) 平成30年9月10日

東京双松会会報(第9号)

花のバリの街路が犬の糞まみれとは驚きましたが、その理由は犬頭税が導入されたことにあるそうです。犬を飼っているパリ市民は、自分たちは税金を払っている。従って犬の糞の処理は市がやるべきだということで犬頭税導入に対する一種の反対示威行動なのだそうです。日本の場合、犬の飼い主がビニールを持ち、中には水も持ってそれで道路を洗浄する人もいる状況にほっとします。

普段何も感じていないことが海外の目線で見ると違つように映る。これにより日本の「気づかれていない良さ」

を再認識することも重要だと思います。もちろん海外にも沢山の「良い点」がありますが、ここでは省略致します。

さて、2020年、いよいよ東京オリンピックです。外国の多くの方が日本を訪れると思います。この方々に日本をよく知ってもらふこと、そして我々も日本の良さをもう一度見直すという意味で大変良い機会だと思っています。この機会を捉えて日本が大きく飛躍することを期待しております。

(株式会社 商船三井 相談役)

平成29年度総会報告

平成29年10月14日(土)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)において、第62回総会及び懇親会が母校、双松会、近畿双松会からの来賓を迎え、会員100名の参加を得て盛大に開催されました。

嵯峨崎泰子さん(S59年卒)の司会で始まった総会では、中村康一事務局長(S40年卒)の開会の辞に続き、芦田昭充会長(S37年卒)が登場され、続いて来賓を代表して母校の小林三高教頭、金津任紀双松会会長(S40年卒)、金平憲双松会幹事長(S40年卒)からご挨拶とご報告をいただきました。



母校の小林三高教頭

芦田会長は挨拶の中で、米国トランプ大統領のスペルに、T=テロ、R=レート、U=ユニタリズム(一国主義)、M=ミサイル、P=ポピュリズムを擬して、現在世界が抱えている各種不安材料を分かりやすくお話になりました。

小林教頭は、卒業生の進路実績に始まり、母校生徒のスポーツ系・文化系それぞれの分野での活躍振りを詳しく披露されました。

金津会長は、昨年開催された母校創立140周年記念総会成功に対する謝意とともに、少子化により生徒数が減少する中、母校も時代のニーズに即した新たな学校づくりに取り組んでいること、また双松会の存在意義について力強く述べられました。

最後に、金平幹事長が母校のシンボルである「二本松」について、現在一本が枯れてしまい「一本松」になっていること、今後これを復活させるために卒業生各位のご支援をお願いすることになることを話されました。

来賓挨拶が終わったところで、中村事務局長より28年度活動報告、矢田修治会計担当(S46年卒)の会計報告、宮城由美子監事(S53年卒)の監査報告があり、満場一致で承認されました。

続いて、東京大学大学院教授の須藤修さん(S49年卒)による「AI(人工知能)と生活・医療」と題する講演に移りました。須藤さんは、AI分野の第一人者で、AIがどのような技術で今後我々の生活にどのように影響していくのかについて、具体的な事例に即した大変興味深い話をしていただきました。

講演が終わり、懇親会に移りました。今回は山本喜朗さん(S28年卒)の力強い発声による乾杯に始まり、いつものようにたちまちにして座が和み、あちこちに懇談の輪が広がりました。

(3) 平成30年9月10日

東京双松会会報(第9号)

最後に大岩篤郎幹事(S42年卒)のリードで「赤山健児の歌」「山脈浮かびて」を大合唱し、今回から新たに副会長に就任された井原勝美さん(S44年卒)のご挨拶と閉会の辞でお開きになりました。

(総会・講演・懇親会の模様は東京双松会のホームページに詳しく掲載されています)

(文責・田中稔=S40年卒)

「ゴルフコンペに参加しませんか？」

東京双松会では会員相互の交流を目的としてゴルフコンペを開催しています。

昨年12月には第8回ゴルフコンペを、千葉県万木城カントリークラブにて開催しました。

今回もまたまた快晴のもと、男子13名、女子2名、総勢15名の参加で、和気あいあいと楽しい1日を過ごす事ができました。

そして優勝は糸川孝一さん(S55年卒)、惜しくも準優勝は井原副会長ということになりました。今回は筆者も含め皆さん苦戦されたご様子で、芦田会長も初めての上位入賞ならずという波乱の結果となりました。

そして参加者にとっては気になる各賞ですが、今までは毎回地元鳥根県産品を用意しておりましたが、今回は優勝賞品の活伊勢海老とさざえセットをはじめ、旬のフルーツセットなど、開催コース地元の千葉県産品を取り揃え、みなさまにお土産としてお持ち帰りいただける景品構成にさせていただきます。



万木城カントリークラブで第8回ゴルフコンペを開催



優勝した糸川孝一さん

実は7月28日に第9回コンペを開催予定でしたが、今年の尋常でない酷暑を考慮し延期しております。

第9回は10月21日(日)、千葉県南茂原カントリークラブにて開催いたします。まったく気取らない気軽な集まりですので、皆様お気軽に同級生ご家族とご一緒に参加していただけることを願っております。

参加希望、お問い合わせは下記連絡先へご連絡ください。
tokyososhokai.golf@gmail.com

報告 コンペ幹事 高根護康(S55年卒)

講演

— 須藤 修(第25期 昭和49年卒) —

■ ■平成29年度総会・講演■ ■

「AI(人工知能)と生活・医療」

～データ分析・IoT・機械学習

という“キーワード”からAIを解き明かす～

講演のサブタイトルに出てくる用語や例などは、東京双松会のホームページに記載(URL: <http://www.tokyo-soshokai.org/>)。

AI(人工知能)という言葉は、「Artificial Intelligence」を略したのですが、研究機関や研究者によっても定義は違います。けれども「AIネットワーク社会推進会議」の議長を務めた須藤氏は、「学習することにより、自らの出力やプログラムを変化させる機能をもつAIを組み込んだコンピュータ・システムである」と『報告書2017』(総務省)で定義しています。

AIが最も得意とするのは、大量の情報処理です。ただ、AIの可能性が広がった背景には、ディープラーニングに代表されるAI技術(機械学習)や、コンピュータの計算能力の進歩に加え、AIが学習するための大量のデータが、IoT(モノのインターネット)で取得できるようになったからです。IoTとは(Internet of Things)の略で、あらゆるモノがインターネットにつながることを意味しています。

《IoT[モノ……あらゆるモノがインターネットにつな

UCパークレー、4番目がアップルでした。

このデータ分析により、おおよその行動からおおよその消費カロリーを推測することができました。しかし現時点では、健康管理データとしては活用できるが、医学的に信頼できるデータとはいえなかったという。歩き方も人によって違うので、歩いているという学習をしながら、だんだん賢くしていくのです。これがマシンラーニング(機械学習)という、コンピュータの、「人工知能の核」になります。

次は、千葉市からの要請で、「データ解析によって予防医療をやり、病人を減らして、千葉市の財政負担を軽減しよう」というコンセプト。千葉市の人口96万人のうち、26万人が国民医療保険なので、医療請求書=レポート200万件分をデータとして使い、分析しようというもの。2014年7月から、千葉市と東京大学(須藤研究室)のビッグデータに関する共同研究が始められた。

加えて、「高齢者の増加と多様なパターン」(東京大学高齢社会総合研究機構、秋山弘子教授による)のビッグデータ、男性3000人、女性3000人による高齢者の虚弱化のデータも参照している。

千葉大学と東京大学の共同研究でまとめたものが、「合併



る]→ビッグデータ [データ収集……大量・多種類・リアルタイムでデータを収集]→AIが【データ分析】を行い、分析結果で価値を創造する(たとえば経済活動なら、売上高の拡大やコスト削減を通じ、利益を増やし、企業価値を増加させる)というような流れになります。この「分析結果で価値を創造」という意味は、工業分野ではドイツが進める「インダストリー 4.0 (スマートカーやスマートグリッド=エネルギーなど)」、金融分野では「フィンテック (AIを使ったこれまでにない金融サービス)」として応用されています。

最近話題になっている「スーパーインテリジェンス」は、人間の叡智や能力を超えた超絶AIのことを指します。ただこれは、人類にとって脅威になると、ビル・ゲイツやイーロン・マスク、スティーブ・ホーキングなどが警告しています。

次に、須藤氏の講演から、氏のアイデアで行われた2つの事例をまとめて紹介します。

1つ目は、「情報を薬にするというもの」。情報も使い方によっては薬にすることはできるよね——というコンセプト。須藤氏のアイデアは、九州大学病院の医療データのうち、糖尿病患者からのデータを使い、生活習慣病への保健指導ができるというもの。通院している患者の24時間データを探って、医療過誤を防ごうという狙いもある。歩く、走る、立つなどの基本動作を判別し(3軸加速度センサー)、フーリエ変換で「特徴量」をとっていき、デシジョンツリー(決定木)という数学のアルゴリズムを組み合わせます。アルゴリズムとは、「問題を解くカギとなる手順」で、AIはアルゴリズムを通じて、質問への回答や問題への解を見つける手順をコンピュータへ伝達します。実験データから機械学習した結果、67.39%~93.72%の正答率が示され、これは2010年当時、世界トップの正答率でした。この正答率とは、実際に何をやっているかという判別のこと。このとき世界で2番目の正答率はMIT(マサチューセッツ工科大学)、3番目が

症のネットワーク図)です。120の疾病を、須藤研究室でRという分析ソフトを使い、ネットワーク分析したものの。その結果、数々の疾病のうち、高血圧症がネットワークの中心にあります。つまり高血圧は万病のもとであり、高血圧が継続すれば、腎臓、肝臓、心臓、血管、脳など、全部がやられていきます。また、45歳を超えてのジョギングは負担が大きく、体に悪い。女性は膝に負担をかけるから骨粗鬆症になりやすい。男性は汗を一杯かくので血栓ができやすい。血栓が心臓に入れば心筋梗塞、頭に行けば脳溢血になります。だから、45歳を超えれば水をもって歩いていただく。早歩きとゆっくり歩きを交互にやるのが重要なのです。

現在、須藤氏が取り組んでいるのは「ディープラーニングを使った多言語音声翻訳」です。これには「ボイストラ(VoiceTra)」というアプリケーションソフトを使っており、このアプリは無料でダウンロードできます。32カ国語の言語の自動翻訳、音声翻訳をやっているとのこと。この目標は、「史上初めて、言語で苦勞しないオリンピックを実現すること」。この開発を行っているのは「グローバルコミュニケーション開発推進協議会」で、須藤氏はその協議会の会長を務めている。東京と大阪にサーバがあり、現在のところ15%ぐらい間違えるとのこと。そのうち、超並列コンピュータで処理するサーバなら、グーグルと十分戦えるはずだということ。東京オリンピックでは医療、ショッピング、観光、鉄道、タクシーなんかで使われることになるでしょう。

(文責・長谷川隆義 = S40年卒)

須藤修(すどうおさむ)プロフィール

東京大学大学院情報学環教授。東京大学情報教育センター長。総務省AIネットワーク社会推進協議会会長。グローバルコミュニケーション開発推進協議会会長。

(4) 平成30年9月10日

東京双松会会報(第9号)

ふるさと巡り IN 東京



松江・宍道湖を通過した作家・歌人たち

切れ目無く続く酷暑をやり過ごそうと、ふと思いついたのが、松江や宍道湖をテーマに取り上げた作品を読んでみようということだった。

夏休みということで思い出したが、小中学生のころ、夏休みの宿題のサブリーダーとして取り上げられていたのが、たしか、石川淳の著した『諸國崎人傳』のなかの小品、松江の指物師の生涯を描いた「小林如泥」だった。この作品集は、他にも『北越雪譜』の著者・鈴木牧之、坂口安吾の実父・阪口五峰など江戸末期から明治にかけて生まれた崎人10人を取り上げているが、その冒頭の部分は次のように始まる。

《寛政九年二月、出雲の国松江大工町に住む指物大工小林安左衛門は藩主松平七代治郷から剃髪を命じられ、如泥の号をさすけられた。ときに如泥四五歳、治郷四七歳。治郷はすなわち不味である。出雲の藩祖松平直政は結城秀康を父とし、徳川家康を祖父とする。直政もと信濃国松本に封ぜられてゐたが、寛永十五年二月松江に移された。如泥の祖もまた大工として藩祖にしたがって松本から松江に轉じたものである……》

志賀直哉は『濠端の住まひ』で、里美淳と過ごした3か月の感懐を描いている。大正3年夏のことだ。

《一ト夏、山陰松江に暮した事がある。町はずれの濠に臨んだささやかな家で、独り住まいには申し分なかった。庭から石段で直ぐ濠になって居る。対岸は城の裏の森で、大きな木が幹を傾け、水の上に低く枝を延ばして居る。水は浅く、真菰が生え、寂びた工合、濠と言うより古い池の趣があった。鳩鳥が始終、真菰の間を啼きながら行き来した。私は此処で出来るだけ簡素な暮しをした。》

ここに、一風変わった作品がある。開高健著『新しい天体』である。新しい天体とは、《新しい御馳走の発見は人類の幸福にとって天体の発見以上のものである。》)プリア・サヴァラン『美味礼賛』による。予算の残りを食いつぶすために生まれた(景気調査官)が知床半島から鹿児島まで、主人公はただひたすら食いまくる。銀座のたこ焼きの名店「たこ梅」を振り出しに、大阪の「たこ梅」でドテ焼きとおでんを平らげ、亭主に聞いた「湖のきれいなところのうまいもの」を教えてもらい、その足で松江に向かう。

『たこ梅』にいわたただけのものを一品ずつでもいいからといって電話でたのんでおいたので、宍道湖の飲びがづきとはこびこまれた。シラウオ。ワカサギ。コイ。アカガイ。スズキ。ブリ。タイ。シラウオは生を辛子酢味噌につけて食べてもよく、卵でとじて吸い物にしてもいい。半透明のその小さな体に黒い、大きな眼がついているところは病みがちな、おびえやすい少女を思わせる。川エビが水のなかで藻から藻へ跳ねたり、踊るように、しゃくするように泳いでいるところを見るとガラスの精妙なオモチャがそうやっているように見えるのだけど、この玉を小魚にしたようなシラウオだと、どう見えるだろうか。

「シラウオの躍り食いを食べてくると大阪でいわれてきたんだけど、どうかしら。宍道湖へ舟で出て、マホー瓶に熱いところをつめていって、とれるあとあとからシラウオを食べちゃあ一杯キュウ、食べちゃあ一杯キュウというのをやってみたいんだけど、おねがいできますか?」……さて、この首尾はどうだったか。

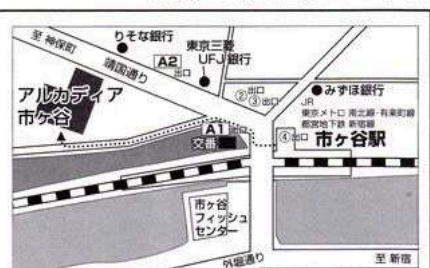
都合30人は超える人たちの描いた、松江や宍道湖は、皆さんの目にはどう映るだろうか?

(文責・長谷川隆義 = S40年卒)

＝平成30年度 第63回東京双松会開催のご案内＝

1. 日 時 / 平成30年10月13日(土)12時~16時
2. 会 場 / アルカディア市ヶ谷(私学会館)
東京都千代田区九段北4-2-25
TEL: 03-3261-9921 (代表)
3. 参加費 / 8,000円(学生無料)
4. 申込〆切 / 平成30年10月1日(月)

■講演「田部家750年 たたら製鉄550年 これからの島根」■



(講演者) 第25代田部長右衛門 (たなべ ちょうえもん) 北高H10年卒 (49期)

榊田部 代表取締役社長、山陰中央テレビジョン放送㈱ 代表取締役社長

江戸時代に全盛を極めた「たたら製鉄」を生業としてから550年、現在は国内有数の山林地主として知られる田部家の第25代当主。本年5月には「たたら製鉄」を約100年ぶりに復活。その復活にける思いや、鳥根の将来性などを語っていただきます。

◆エンターテイメント◆

山根万理奈 (やまね まりな) 北高H20年卒 (59期)

シンガーソングライター、バーガーインレコード所属

YouTubeで顔を出さずにギターを弾いて歌う姿が評判となり、大学時代にスカウトされ、2011年にCDデビュー。懇親会の中で自曲を披露して頂きます。

編集後記

松江・宍道湖についての文学作品は、『松江・文学への旅』(編者：藤岡大拙、発行：(社)

松江観光協会=今井書店扱い)に詳しい。『諸國崎人傳』は中公文庫、『新しい天体』は、新潮文庫に所収されている。

長谷川記